

No.178

さい議会だより



漁民の森づくり植樹祭（平成29年6月23日）【関連記事：5ページ】

6月定例会の主な内容

- ☆ 農業委員 7人の任命に同意 ・・・・・・・・・・・ 3 ページ
- ☆ 一般質問に 2 名の議員が登壇 ・・・・・・・・ 4 ~ 7 ページ
- ☆ 議会改革特別委員会審議経過報告 ・・・・・・・・ 11 ページ
- ☆ お元気ですか「悔いのない人生」 ・・・・・・・・ 12 ページ

平成29年第2回定例会は、6月14日から16日までの3日間の会期で行われました。村長から報告1件・承認9件・補正予算案3件・条例案4件・同意8件の計25件、議員から意見書案1件が提出され、それぞれ原案どおり決しました。

補正予算の主な内容

会計	補正前	補正額	計
一般会計	24億9409万2千円	5659万4千円	25億5068万6千円
	・美しい村づくりビジョン策定に要する経費 (策定委員会開催、先進地視察など)	536万8千円	
	・水産振興基金事業補助金 (第2水産物処理加工施設改修、福浦地区水産物荷捌施設新築)	3930万3千円	
	・仏ヶ浦港湾整備事業(不採択による)	△625万0千円	
	・大佐井新町村営住宅の改修	1807万5千円など	
特別会計	7643万8千円	359万6千円	8003万4千円
簡易水道	・職員の人事異動に伴う人件費の増額 ・水道メーター検針用紙の印刷費 など		
下水道	1億8943万3千円	△646万9千円	1億8296万4千円
	・職員の人事異動に伴う人件費の減額 ・浄化センターポンプ等施設の修繕費 など		

～平成29年6月定例会～

※ 認定農業者 農業経営基盤強化促進法に基づき、耕作面積や所得の向上を目指した「農業経営改善計画」を作成した農業者の中から、市町村が基本構想に照らして認定する。

○佐井村農業委員会委員の任命について
認定農業者等が過半数を占める「ことを要しない場合の同意について」農業委員会等に関する法律の改正により、平成28年4月1日以後、農業委員の選任は「公選制(有権者による選挙)」から「村長が議会の同意を得て任命する方法」に改められました。
また、農業委員の過半数は「認定農業者(※)」とすることが定められていますが、村内には認定農業者がいないため、地域農業の中心となる方を「認定農業者に準ずる者」とすることに同意しました。



○佐井村災害対策本部条例の一部を改正する条例
一部を改正する条例
災害対策基本法に規定される条文の内容と合致させるもの。

議会改革特別委員会等で協議し、平成29年3月3日付で議長が村長に提言した内容を基にした条例改正。
佐井村地域防災計画を作成するために組織する会議の委員に、「自主防災組織を構成する者」を加え、委員の種別ごとに2人から8人と定められた定数を「20人以内」に改めるなどし、円滑・柔軟な会議運営を図るもの。

○佐井村防災会議条例の一部を改正する条例
佐井村地域防災計画を作成するためには組織する会議の委員に、「自主防災組織を構成する者」を加え、委員の種別ごとに2人から8人と定められた定数を「20人以内」に改めるなどし、円滑・柔軟な会議運営を図るもの。

農業委員 7人の任命に同意

« 新農業委員会制度 »

今まで農業委員会委員は、農業者による選挙により選ばれていましたが、平成 28 年 4 月以降は新たな制度により、村長が任命することになりました。

旧制度の委員は平成 29 年 7 月 19 日で任期満了となるため、平成 29 年 4 月 3 日から 5 月 2 日に募集が行われ、定数 7 人に対し 7 人の応募がありました。

村長から提案された 7 人の任命については、すべて同意することに決しました。

任期は、平成 29 年 7 月 20 日から平成 32 年 7 月 19 日までの 3 年間です。

平成 26 年 7 月～農業委員
昭和 18 年生まれ（大佐井）



川村 久子 氏

平成 23 年 7 月～農業委員
昭和 16 年生まれ（川目）
会長職務代理



加藤 良悦 氏

平成 11 年 7 月～農業委員
昭和 7 年生まれ（大佐井）



宮川じゅん 氏

平成 23 年 7 月～農業委員
昭和 13 年生まれ（大佐井）
昭和 15 年生まれ（古佐井）



太田ハル子 氏

平成 14 年 7 月～農業委員
昭和 24 年生まれ（原田）
準認定農業者



菊池 繁 氏

平成 23 年 7 月～会長
昭和 24 年生まれ（原田）
準認定農業者



佐藤 安美 氏

平成 23 年 7 月～農業委員
昭和 13 年生まれ（原田）
準認定農業者



萬谷美知男 氏



農業委員辞令交付式・組織会（7月21日：役場和室）



竹内典和議員

移動手段を持たない高齢者のために デマンド交通システムを導入せよ

村長 — 過疎地・福祉有償運送事業を強化し、対応する

竹内典和議員

これまで、免許を返
還し交通手段を失った高
齢者をどう救済するのか

**有償運送事業を
充実させる**

考慮し、地域のネットワ
ークで支える必要もある
と考える。

**村
長**

質問してきた。
住民の要望に応えるた
め、バスとタクシーを掛け合
わせたような「デマンド交
通システム(※)」を導入してはどうか。

**社会福祉協議会が実施
する過疎地・福祉有償運
送を充実させ、佐井村版
のデマンド交通システム(※)
を検討する。**

竹内典和議員

村内にタクシー会社は
ない。また、買い物等の
ため頻繁に利用するには、
交通費の負担が大きい。

利用上のルールを整理
し、有償運送事業の利
用者が使いやすい体制を構
築する。

**村
長**

**すぐに、安く
利用したい**

竹内典和議員

ボランティアではなく、
業者委託すべきと思うが。
責任が問われる。

利用しやすい
体制を構築する

**タクシー会社は
村内にない**

**利用しやすい
体制を構築する**

※ デマンド交通システム

住民のデマンド(=需要・要求)に応じ
た新しい交通システム。
情報技術を活用し予約管理することで、
バスとタクシーの利点を生かした目的地か
ら目的地まで、ドアからドアへの送迎を安
価に実現することができます。
平成14年から始まり、全国50の地域で高
齢者や子供の生活交通の手段、財政支出の
効率化策として実施されています。

**村
長**

**住民同士で
支える必要もある**

有償運送事業は、前日
までの予約が必要。すぐ
に、安く利用できるサー
ビスがあれば便利になる。

**利便性向上は
タクシーの役割**

ボランティアではなく、
業者委託すべきと思うが。
責任が問われる。

住民の希望に応えるの
は、タクシーの役割。村
がすべての要望に応える
のは難しいが、様々な交
通手段を使い、課題をク
リアしていくたい。



公共交通機関が乏しい村内で有償運送事業は重要な移動手段

林業振興と地球温暖化防止 荒廃した山林を お金を生む山林へ

村長 — 関係団体と協議し積極的に進める

竹内典和議員

村の総面積の90パーセント以上が山林であるが、手入れがされていない場所が多い。

全国的に企業による二酸化炭素吸収量の購入意欲が高まっているため、村がそれを販売し、得た収入で林業振興に努めるべきと考えるが。

**制度の導入には
面積が足りない**

村長

環境省によるオフセット・クレジット制度(※)を導入するには、村有林の面積が足りない。森林経営計画を作成し、民有林の整備を進めたい。

**民有林・国有林も
含むべき**

竹内典和議員

村有林、民有林、国有林を一体のものとして取り組むべき。

**制度に関する
情報収集する**

村長

森林は、国土保全、地球温暖化防止のためにも生活に欠かせない働きをしている。木を植え、育て、活用するといったサイクルを確立することが重要と考える。

環境省による制度に関し情報を収集し、導入について検討したい。

**関係機関と協議し
積極的に進める**

村長

関係課、その他上部団体と協議しながら、積極的に進めたい。

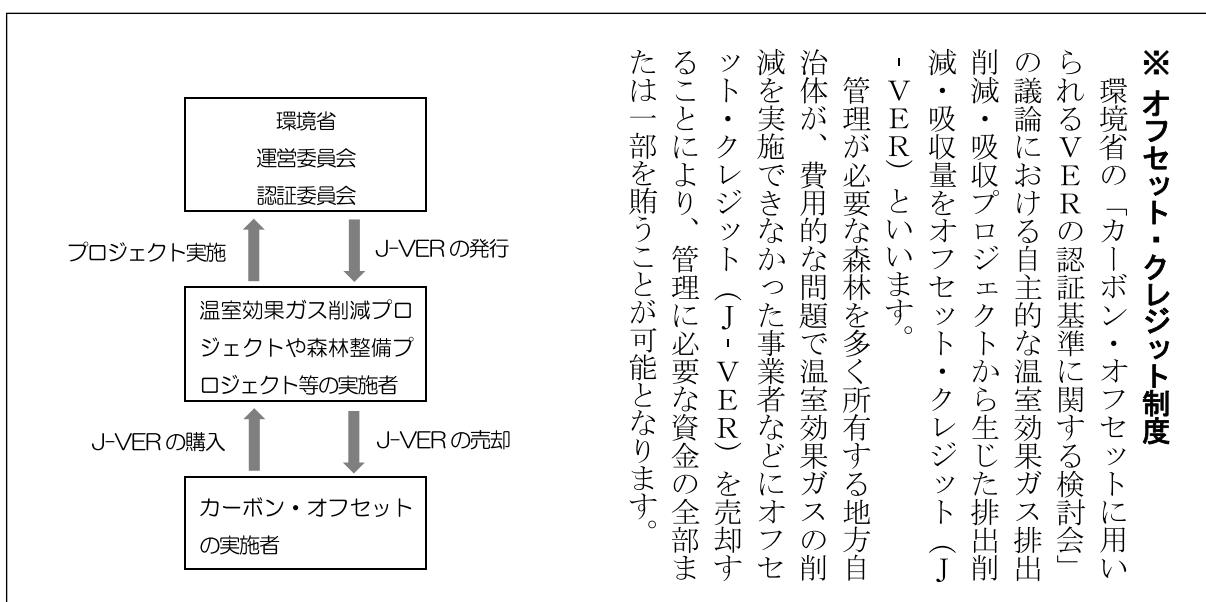
抑制対策事業に、青森県内から4市町村が応募している。佐井村からも応募がある。

※ オフセット・クレジット制度

環境省の「カーボン・オフセットに用いられるVERの認証基準に関する検討会」の議論における自主的な温室効果ガス排出削減・吸収プロジェクトから生じた排出削減・吸収量をオフセット・クレジット（J-VER）といいます。管理が必要な森林を多く所有する地方自治体が、費用的な問題で温室効果ガスの削減を実施できなかつた事業者などにオフセット・クレジット（J-VER）を売却することにより、管理に必要な資金の全部または一部を賄うことが可能となります。



植樹を行う漁業者（川目地区：6月23日）





宮川 尚議員

アルサス周辺活性化事業 村道整備も併せて推進せよ

村長 — 関係機関と調整する

宮川議員
アルサス周辺活性化事業が計画されているが、その基本設計と工事着工時期は。

8月、実施設計
9月、入札予定

**エレベーター設置
公園整備など**

しおさい公園の遊具は

関係機関と協議する

対策上必要なため、話し合いのうえ購入を検討する。

道路整備に向け共に取り組みたい

村長
アルサス周辺活性化事業が計画されているが、その基本設計と工事着工時期は。

村長
裂き織グループが使用している場所の一角に、13人乗りのエレベーターを設置。

宮川議員
しおさい公園の遊具とは。

村長
漁港地内のために、漁港事務所等の関係機関と協議する。

宮川議員
アルサス周辺は、以前、臨港道路から郵便局付近までの道路を拡幅する計画があつたと思うが。

村長
計画は書類等でのちほど確認するが、川内・佐井線（かもしかライン）の道路整備に向け、村と議会が一体となつた取り組みが必要と考えている。

村長
基本構想は3月21日に終了している。8月中に実施設計を完了し、9月中旬に入札を行う。今年度中の事業完了を目指している。

村長
定期観光船の車庫がある場所に、24時間対応の屋外公衆トイレを整備。

参事・総合戦略課長
滑り台・ボルダリング設備が一体となつた大型遊具1基、ばね仕掛けの乗り物を3基計画している。

宮川議員
国道に接続する村道整備も必要

宮川議員
アルサスを道の駅にという構想もあり、利用者の利便性を図るには、国道に接続する村道の拡幅が必要ではないか。

村長
計画は書類等でのちほど確認するが、川内・佐井線（かもしかライン）の道路整備に向け、村と議会が一体となつた取り組みが必要と考えている。

計画の内容は

しおさい公園のトイレ整備は

土地の購入を検討

宮川議員
計画の内容は。

村長
地場産品販売施設は、出店者が決まり次第、整備を図る。

宮川議員
公園内の屋外トイレの整備も必要ではないか。

村長
先般、地権者から土地の売買について打診があった。防災上、交通安全



しおさい公園を親子が集える場所に
(平成25年ちびっこ海賊の佐井村まち探検)

減少する年少人口 きめ細かな教育環境の整備を

教育長 — 都市部との格差をなくすよう努める

宮川議員

村の財政状況は、今後どう推移するのか。

地方交付税減額の懸念がある

各種団体を通じて要望している

人口減少への対策は

村長

小規模な自治体ほど、地方交付税に頼っている。地方交付税制度の変革により自治体が崩壊することにならないよう、青森県知事や各種団体を通じて要望活動を行っている。

村長

現在、電力関係の交付金は消防活動費、保育所運営費等に充当している。今後さらに義務的経費の抑制に努めなければならない。

村長

生産年齢人口の流入と定住促進。

定住促進などに取り組んでいる

宮川議員

人口減少への対策は。

7月9日、昨年度の事業により結婚されたご夫婦へ、東京都内のレストランへの招待状を贈呈する予定となつていて。

児童・生徒数の推移は

宮川議員

保育所、小・中学校の児童・生徒数の推移は。

教育長

都市部との学力格差の是正、教員数の減少を補う方策、中学校教員による小学校への乗り入れ授業、学校規模適正配置の検討、学校・地域・行政が一体となつて取り組むことが求められる。

環境の整備は。

2030年には34人減少の見込み

村長

年間出生数を4人と推計し、保育所入所児童を20人前後と見込んでいる。

佐井小、佐井中学校施設の一体化、行事の合同開催等の考えは。

宮川議員

小・中学校の児童・生徒数は、2030年には現在より34人減少し、佐井小学校では平成30年度、佐井中学校では平成35年度に複式学級が編成されると見込み。

学校施設の一体化は

地方交付税は減額されるのか

宮川議員

自治体の「貯金」に当たる基金が多いことを理由に、政府内では地方交付税減額の動きがあるが。

昭和30年（1955年）の5642人をピークに減少し、今年5月末で129人となつていて。2030年には、163人

2030年には1635人と推計

村長

村の人口は、今後どう推移するのか。

婚活事業は継続するのか

宮川議員

健康長寿、健康寿命の延伸を目指し、取り組んでいる。

今年度も2回開催

今年度も2回開催する。

教育環境の整備は

少人数に対応した教育

学校施設の一体化は、考えていない。また、学校行事については、今後学校・地域に検討してもらう。

考えていない

教育長

学校施設の一体化は、考えていない。また、学校行事については、今後学校・地域に検討しても

収入保険ではなく戸別所得補償の復活を求める果樹共済の 「特定危険方式」を廃止しないことを求める陳情

採 択

【陳情者】 青森県農民運動連合会 会長 森 淳一

【審査結果】 採 択

【付託委員会】 総務産業常任委員会

【陳情の趣旨】 収入保険ではなく、農業生産者への戸別所得補償制度の復活で「不足払い」の仕組みを確立すること、果樹共済の特定危険方式を廃止せず、加入しやすい共済制度とすることを求めるもの。

【採択の理由】 収入保険では米の安定生産を確保する米価の下支えにならないおそれがあるため、農業者戸別所得補償制度を復活させることで、国民の食糧と地域経済、環境と国土を守る必要がある。また、農業共済制度の見直しにより「特定危険方式」を廃止することは経営安定対策にはなり得ず、加入しやすい共済にすることが必要であるため。

採択された意見書

衆議院議長・参議院議長へ提出しました

請願・陳情の取り扱いについて

【請願】

国民に認められた憲法上（第16条）の権利の一
つです。

提出には紹介議員を必
要とし、採択された請願
は、関係機関に送付する
に当たり、処理の経過及
び結果の報告を請求する
ことができます。

定例会は3月、6月、
9月、12月に開催されま
す。議会運営委員会開催
日までに受理しないもの
は、次回定例会での審査
対象になります。

を必要としません。
請願ほど明確な法律上
の規定がないため、議会
運営委員会での協議によ
り、請願に準じた取り扱
いにするか、議員に参考
配布とするかを決定しま
す。

会ごとに、開会予定日の
7日前に開催します。

詳しく述べては、議会事務局
へお問合せください。

【陳情】

議会、執行機関双方に
実現への努力が要請でき
ます。

必ず押印のうえご提出く
ださい。提出は、郵送、
氏名、住所を記載します。

7日前に開催します。
会ごとに、開会予定日の
7日前に開催します。

詳しく述べては、議会事務局
へお問合せください。

各種団体の議長への案内について

各種団体が議長へ行事な
事への参加・出席を求
める場合、ご案内は議
長の自宅ではなく、議
会事務局（佐井村役場
内）へお届けください。
議長のスケジュール
とになっていますので、

調整、出張や村内行事な
どへの出欠報告は、議会
事務局が行います。

活動は「諸般の報告」と
して定例会で報告するこ
とになっていますので、

みなさんのご理解、ご
協力をお願いします。

千金温泉の再開について（平成28年12月定例会）

運営再開の見通しは



事務所として使用されている旧千金温泉（原田地区）

田中議員
千金温泉の再開について、所有者との話し合いはなされたか。

再開は厳しいとの回答

費用負担の問題から、再開は厳しい状況のことであつた。

期待を抱いていただけ

村民の要望として伝える

村長

温泉開発を中心とした観光開発や地域振興を目指していたが、湧出量・利用客が多く見込めない

状況から判断すると、再開は難しい。

所有者である㈱東北産業に検討していただき、先般確認したところ、維持管理や運営面の不安、

村民のため、村が費用を補助し運営するなどの方法を検討できないか。

しかし、㈱東北産業では何らかの形で村に貢献したいという思いがあるようなので、村民の要望として伝えていきたい。

田中議員
村民のため運営方法検討を

村長

青森県町村議会議長会が主催する「町村議会広報研修会」が5月25日（木）、青森県労働福祉会館で開催され、全委員5人が参加した。はじめに澤口会長から、県内30町村中23町村が議会広報を発行しているが、全国平均89パーセントを下回る77パーセントという状況。住民に読まれ、議会活動が伝わるような議会広報は町・村政の発展に必要である、とのあいさつがあった。引き続き、議会広報サポーター芳野政明氏を講師に「住民に読まれ、議会活動が伝わる『議会だより』の基本と編集」と題した講演が行われた。

議会広報発行の目的は、住民への説明責任を果たし、議会への関心・関与を高めることがある。議会広報の活発化がさらなる議会改革を推進すると言われ、議事や議会諸活動が地域住民に公開され、政策情報などが共有されるまでが議会人の仕事であることを再認識した。また、全国の優良議会広報の事例紹介や県内5町村のクリニックでは、見出し、リード文、写真及び図表、記事・本文、余白の効用を工夫することなどを学んだ。

今回の研修内容を踏まえ、新たな視点を持つて今後の紙面づくりに取り組んでいきたい。



講師の芳野政明氏

レポート

「日本で最も美しい村」連合総会 フェスティバル2017 in いいで

派遣議員代表 田中岩男

6月28日～6月30日、（北海道）があいさつを山形県西置賜郡飯豊町で開催された「日本で最も美しい村」連合総会・フェスティバル in いいでにエスティバル in いいでに全議員が参加した。

1日目、午後6時からめざみの里観光物産館（道の駅いいで）で、担当補佐役等懇親会が開催された。

2日目、午前9時から町民総合センター「あーす」で、会員159人中67人が出席、委任状29人により総会が開催された。

NPO法人「日本で最も美しい村」連合会長の浜田哲美瑛町長（北海道）、開催地の後藤幸平飯豊町長のあいさつに引き続き、北岡篤吉野町長（奈良県）を議長に選出し、議事が進行された。なお、菅野典雄飯館村長（福島県）、樋口秀視佐井村長が議事録署名議員に指名された。

報告3件、議案5件を審議し、全件承認・可決された。また、来年度開催地の大石正行鶴居村長

もあいさつを述べた。

NPO法人「日本で最も美しい村」連合会長の浜田哲美瑛町長（北海道）、開催地の後藤幸平飯豊町長のあいさつに引き続き、北岡篤吉野町長（奈良県）を議長に選出し、議事が進行された。なお、菅野典雄飯館村長（福島県）、樋口秀視佐井村長が議事録署名議員に指名された。

経済発展は限界に近づいている。地方再生は、経済再生ではなく社会再生であるとの内容であつた。

NPO法人「日本で最も美しい村」連合会長の浜田哲美瑛町長（北海道）、開催地の後藤幸平飯豊町長のあいさつに引き続き、北岡篤吉野町長（奈良県）を議長に選出し、議事が進行された。なお、菅野典雄飯館村長（福島県）、樋口秀視佐井村長が議事

録署名議員に指名された。

経済発展は限界に近づいている。地方再生は、経済再生ではなく社会再生であるとの内容であつた。

これまで人類の食糧は地球の「利息」で充足して

いたが、この50年間で「元金」も切り崩す状況となっている。日本の食糧自給率は、大都市である東京・大阪で1パーセント、神奈川県でも2パーセントに過ぎない。

持続可能な社会を作るには、人と人、人と自然、世代と世代がつながることが大事。お互いが関心

と共感を持ち合う社会が美しい村である。美しい村づくりは、昔からの「ゆい」の精神につながっている。

これまで人類の食糧は地球の「利息」で充足して

いたが、この50年間で「元金」も切り崩す状況となっている。日本の食糧自給率は、大都市である東京・大阪で1パーセント、神奈川県でも2パーセントに過ぎない。

持続可能な社会を作るには、人と人、人と自然、世代と世代がつながることが大事。お互いが関心と共感を持ち合う社会が美しい村である。美しい村づくりは、昔からの「ゆい」の精神につながっている。

6月28日～6月30日、（北海道）があいさつを行い、閉会した。

引き続き行われた戦略会議では、NPO法人共存の森ネットワーク理事長の澁澤寿一氏を講師に迎え、「住民自治から美しい村づくりを考える」と題した講演が行われた。

3日目、戦略会議の終わりに、元カルビー㈱代表取締役社長、松尾雅彦副会長から、都市の経済は大きくならないとして失敗する。加盟町村のよう

に小さな自治体は、NPOのような共同体となつて成功する。飯豊町で学んだことを盗み、まねてほしいとの助言があつた。

加盟後初の総会への参加であったが、全国には同じような悩みを持ちな

れた。

今後、この経験をどう

佐井村で活かしていくか、議会活動の中で知恵を出

し合い、関係機関に働き

かけ、自らの地域に誇りを持つて歩み続けるため

の活動を展開していくかな

ければならないとの思い

を新たにした。



加盟町村担当者と懇親を深めた



「あーす」で行われた総会



澁澤寿一氏による講演



討議内容を発表する樋口村長



交流会で披露された荒獅子



人気となった漁協加工品の販売

議会改革特別委員会 審議経過報告

議員定数は現状維持、議員報酬は平成22年当時に戻すことを確認

議會改革特別委員會 委員長 竹内典和

議員の任期も、折り返しの2年を経過し、次の改選まで2年を切りました。魅力ある議会づくりに向け、会社員や各種職業を持つ人、主婦の方々など、さまざまな階層から意欲ある村民が誰でも議員に立候補できる体制づくりが、村議会が抱える課題です。

議会改革特別委員会では、これまで議員定数及び議員報酬について議論を重ねてきましたので、その経過を報告します。

議員定数について、これ以上議員が減ることは村の意思決定機関として議会の使命を果たすことが難しくなること、新たに意欲のある村民が立候補しにくくなることから8人の現状維持とすることを確認しました。

また、自営業者だけでなく会社員の方々などが議員に立候補し、若い方々の生活に支障が出な

◆議員定数◆

い程度の議員報酬月額を確保することが望ましいことから、次期改選後から、報酬月額を平成22年当時の金額に戻す方向で進めることを確認しました。

それに加え、議会の果たす役割を認識し、議員自らが資質を高めることにより、議会機能の充実強化及び活性化を図つていくことが重要であることを今一度確認しました。

議員定数と報酬月額の状況

年	議員定数	議長報酬	副議長報酬	議員報酬	減額
~1982年	16人				
1983年 (昭和58年)	14人	135,000円	120,000円	110,000円	なし
2002年 (平成14年)		269,000円 (262,000円)	224,000円 (217,000円)	214,000円 (207,000円)	△7,000円
2003年 (平成15年)		269,000円 (255,000円)	224,000円 (210,000円)	214,000円 (200,000円)	△14,000円
2005年 (平成17年)		269,000円 (215,200円)	224,000円 (179,200円)	214,000円 (149,800円)	△20%
2006年 (平成18年)		269,000円 (188,300円)	224,000円 (156,800円)	214,000円 (149,800円)	△30%
2007年 (平成19年)		269,000円 (242,100円)	224,000円 (201,600円)	214,000円 (192,600円)	△10%
2010年 (平成22年)		269,000円 (242,100円)	224,000円 (201,600円)	214,000円 (192,600円)	△10%
2011年~ (平成23年)		242,100円	201,600円	192,600円	なし

報酬には条例で定められた月額。（）は減額後の支給額。その他、期末手当も減額のうえ支給されています。

議員定数・議員報酬に関するご意見、その他議会全般について、みなさんのご意見をお聞かせください。 電話：0175-38-2111 FAX：0175-38-2492
E-mail : sai_gikai@yill.sai.lg.jp



夫の正さん（92歳）と

「**昨** 日は三上剛太郎先生の本を読んだんだけどね、とっても感動したよ」と話す山本やゑさん。

洋裁は少し習いましたが、和裁・編み物は独学で習得し、家族の服はほとんどが手づくりだったそうです。その後、勤め先が倒産し、仕事を求めて佐井村へ。正さんの漁業の手伝いをしながら二男一女を育てました。

青森市造道で生まれ育ち、市内のせつけん工場に勤めていたときに正さんと出会い、結婚。昭和20年7月28日から29日の青森大空襲の際も市内にいましたが、自宅とその周辺の2軒ほどが焼け残り、近所の人々に避難所として開放し助け合ったと言います。

元気！で働く お年寄りを紹介

山本やゑさん（88歳） 古佐井
「人としてすべきことは全部した」

収穫したキュウリは近所の方へおすそ分け



お達者クラブで七夕の願い事

今 の楽しみは週に1回のお達者クラブ、近所の人とお茶を飲み、おしゃべりすること。小さくしたけれど続けている畑では、トマトや大根が育ち、キュウリがたくさん実っていました。「去年は3本の苗から60個ものカボチャを実らせた」と嬉しそうに話してくれました。

自分で作った野菜、取ってきた山菜、何でも食べられることが幸せ。新聞広告などで興味を持った本を注文し、毎晩寝る前に読むのが幸せ。達者友達には、やゑさんが読みだ本の内容を聞くのを楽しみにしている方もいます。（お茶のみ友達には、やゑさんが「人としてすべきことは全部したつもり。いつ死んでも後悔はない」と笑顔で話してくれましたが、どうぞ、これからも長生きしてください。

◇編集後記◇
今年も、早いもので半年が過ぎました。
議会だよりも、今回で178号の発行になりました。年間4回の発行ですので、45年が経過していることになります。毎年行われている青森県町村議会議長会による広報研修で、「いい議会だより」は高い評価をいただいております。これまで議会広報の発行に携わった先輩委員各位のご労苦に対し、心から感謝申し上げます。

今後とも見やすく、わかりやすく、親しみやすい広報づくりに努めたいと思います。
(宮川)

議会広報編集委員会

委員長	田中 岩男
副委員長	山口 捷夫
委員	宮川 竹内
委員	典和 尚
委員	黙天